

「切り株と格闘する(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

※2019年秋の活動記録です。

「切り株との格闘」のコツは、何と云っても、「できるだけ深く掘る」「丈夫なスコップを用意する」ということである。



ある程度掘り進め、太い根を切ると、切り株全体が少しグラグラしてくる。グラグラしないうちは、掘る深さが足りないか、まだ見えない位置に、太い根があるということだ。ここは切り株との根気比べということだ。無理やり引っ張るのは腰に良くない。休みながら少しずつやっつけるしかない。



ここまでくると、「丈夫なスコップ」が役立つ。切り株の真下までスコップの先を入れ、「てこの原理」で引っ張り上げるのだ。「支点」が柔らかい土の場合、柄の付け根付近に、適当な石か材木を噛ませると良い。うまくこじくと、「ミシミシ・・・」と音がして、切り株が持ち上がってくる。



こうなればもう片手でも持ち上がる。少しねじるように持ち上げると、細い根も切れて「勝利」となる。



最初の切り株はこんなに小さいものだった。シェーンの切り株とは比較にならない。それでも、慣れてないこともあり、人力だけでは1時間もかかった。



この日は、4個の切り株に挑戦し、最後に一番大きなものをやっつけた。だんだん慣れてきて、一人では持ち上がらないほどの切り株でも、3~40分程度で処理できるようになった。掘り出した切り株は、掘り起こした穴を更に深く掘って、そこに埋めるのが一番良い。シラカバなら十年ほどで、土に戻るだろう。